

植 物 採 集 メ モ (4)

若 杉 孝 生

1. *Lathyrus palustris* Linn. var. *pilosus* Ledeb.

エゾノレンリソウ (ヒメレンリソウ)

昭和46年10月7日、坂井郡三国町で、エゾノレンリソウらしきものを採集した。しかしこの時は花も実もなく、確認出来ず、翌47年5月14日に再び現地を訪れたが、まだ開花しておらず、同年6月4日、さらに再びたずねた時に、ようやく開花した株を確認することが出来た。昭和8年の福井県植物目録の添え書きには、<若狭国大飯郡加斗村及越前国坂井郡沿海地方ニ、レンリソウ一種……アリタルモ研究未了ニツキ本目録ニハ之ヲ記載セズ。……>とあるが、この<越前国坂井郡沿海地方>のものは、あるいはこれであったかも知れない。なお、福井市の博物館には寒蟬義一氏が昭和31年6月に金津町吉崎で採集された葉だけの標本がある。

2. *Viola phalacrocarpa* Maxim. アカネスミレ

昭和47年4月16日 福井市の鷹巣山へカンアオイを探しに行ってみつけたものである。コースが悪かったせいか、時間がなくなったせいもあって、肝心のカンアオイは見つからないまま帰ったが、このアカネスミレは思わず収穫であった。福井県では未記録なのでここに報告する。なお、坂井郡の竹田川上流にオオバキスミレが生育していたことも併せて記しておく。この二つのスミレについては、前川文夫先生に同定していた。

3. *Sedum viride* Makino アオベンケイソウ

ベンケイソウ科の植物の腊葉標本の製作は、もっとも苦労するものの一つである。新聞紙をとりかえて作っていくのでは、2ヶ月も3ヶ月もかかることがあるし、乾ききるまでに、そのうち青白い新芽がのびてきたり、多肉の葉がポロポロ落ちてしまったり、出来上ったときには、生時とは打って変わった無残な姿で、とても採集した時の面影はない。最近の乾燥器を使っても、多肉のものは、つぶれてしまって、本来の姿を想像するのは難しい。

ところで、昨年の植物採集ニュースの会の集いで、東京農大 育種学研究所の湯浅浩史先生にお会いした時、福井県のセダム属についての話が出た。詳しい説明はさけるが、そこで話は福井県のタイトゴメとメノマンニングサに及んだ。福井県のタイトゴメについては、昭和8年の植物目録にも沿海地方に産するとして記録され、その後、磯して沿海地方のものは、タイトゴメであると考えられている。

しかし、例えば、福井市の鷹巣沿岸の岩上のものを見ても、内陸のメノマンニングサとつながっていくような形のものがいろいろあり、いわゆるタイトゴメというものについて漠然とした疑問があった。そこで、湯浅先生の見解や示唆もあり、福井県のタイトゴメとメノマンニングサを

もう一度、洗って見る必要があると思われ、これまでに、越前の海岸のものと若狭の海岸のもの一部について生品を湯浅先生にお送りした。

現在のところ、それらはすべてメノマンネングサ (*S. japonicum*) であって、タイトゴメではないようである。

昨年秋、湯浅先生から山口県産のタイトゴメの生品を送っていたが、明らかにメノマンネングサとは異なることが分る。今後の調査ともども、このタイトゴメが開花するのを楽しみにしている。

さて、表記のアオベンケイソウであるが、これも昨年 8 月 13 日、若狭の青葉山で採集した生品について湯浅先生にご教示いたしたものである。

4. *Carex lenta* D. Don var. *sendaica* T. Koyama センダイスゲ

ナキリスゲに似ているが、ずっと小型で、匍枝を出し、仙台以西に分布する。昭和 46 年 10 月 7 日 坂井郡三国町で採集。

Carex sadoensis Franch サドスゲ

福井県植物目録には、大野石徹白（現、岐阜県）に記録があるが、昭和 46 年 6 月 17 日和泉村後野でとる。

以上二点は奥山春季先生に同定していた。

Lactuca sororia Miq. var. *pilipes* Kitam. ケムラサキニガナ

梗に腺毛があるので、昭和 44 年 9 月 15 日 今立町権現山で採集。

5. アワコバイモとヒメニラの新産地

さきに、アワコバイモについては、本誌第 19 号に、ヒメニラについては本誌第 17 号に、それぞれ＜植物採集×モ＞のなかでふれておいたが、この二つの植物の新しい産地が分った。これは小林博物館長のご案内によるもので、昨年アワコバイモについて発表したところ、「コバイモを見たことがある」という小林館長のお話に、林幸子氏と三人でこの春、時期を見はからって現地を訪れた。場所は第 1 の産地である福井市の深谷とは山つゞきで、丹生山地の北部である。

間違いなくアワコバイモであった。ところが、その附近をよく探してみると、何とヒメニラもあるではないか。この二つの植物が、時と場所を違えて、一つ処に共に生育しているのが見られたことは、何か面白い符合のようで興味深い。第 1 の産地から第 2 の産地までは地図の上で、およそ 3 km ばかり離れているが、今後の調査によつては、あるいは、この分布はもっとひろがるかも知れない。

（昭和 48 年 4 月 20 日）

福井市中央 2 丁目 8 - 27